

太陽の子

2025年 1月 No.190

冬の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



鳩が丘さくら福祉センターを中心に奉仕作業を行いました。保護者の方々、参加可能な利用者さん、職員も含め力を合わせて蔓や雑草の片付け、窓ガラス清掃、垣根の選定などをしました。給食部の協力も有り保護者の方々も給食を味わいランチタイムも経験できました。午後からは懇親会も行われ、意見交換などがあり、職員も貴重なお話を聞かせていただき、交流を深めることができました。

「あたりまえ」を考える

日立市母子療育ホーム管理者 星野 久美子

私事ですが、長年悩まされていた右肩の腱板損傷の手術をしました。三人に一人の割合で肩腱板損傷をしている人がいるとの事でした。みなさんの肩はいかがですか？五十肩との違いは、痛いのが腕が上がるのが腱板損傷で、痛くてどうしても上がらないのが五十肩だそうです。痛い経験をしましたがりハビリテーションの大切さを実感しています。右利きの私は、不自由な生活の始まりです。世の中の左利きの人達を尊敬します。ハサミ、おたま、クリアファイル、ドアノブ、改札口など「あたりまえ」すぎて気づいてない物が沢山あります。使いにくいとは言わず工夫をして順応しているのですね。

令和六年元旦早々に石川県では、「あたりまえ」の日常を奪われ一年経った今も、そのあたりまえは戻って来ていません。苦労の日常の上書きが続くことが叶わない意味の「あたりまえ」になっています。目の前の小さな「あたりまえ」に感謝ができるように心の目を持ち続けることが大切だと感じます。あたりまえに動いてくれる私の右腕にありがとう。食べにくい焼き肉を小さく切ってくれてありがとう。送迎してくれてありがとう。生活するのに快適にしてくれた家族にありがとう。私の肩の手術をするために何度もシミュレーションを重ねて挑んでくれたドクターにありがとう。痛みに寄り添ってくれた看護師さんありがとうございます。リハビリをしてくださったスタッフさんとても楽になります、ありがとうございます。そしてホームのこどもたち、元気に通ってくれてありがとうございます。職場のみんな、温かく見守ってくれてありがとうございます。

すべてがあたりまえから外れてしまったら、私はここにいらないのではないかと考えます。穏やかな日常に甘えて心からありがとう。

職員研修報告 (関フロに参加して)

全国重症心身障害児(者)を守る会 関東・甲信越ブロック大会に参加して

日立市太陽の家 サービス管理責任者

富岡 昌弘

今回、二日間に渡り関東・甲信越ブロック大会イン新潟及び社会福祉法人長岡療育園の施設見学に参加させて頂きました。

「最も弱いものをひとりももれなく守る。」守る会の基本理念です。恥ずかしながら私はこの基本理念を知りませんでした。それどころか、守る会の活動内容をほとんど知らずに過ごしてきました。

一日目の基調講演で「全国守る会の理解を深めるために」事務局長の古川さんが守る会の歴史とこれからの活動のあり方を話してくれました。まず、どうして「親の会」ではないのか。実は私も思っていたことがあります。「親の会」では世間は振り向かない。地域を巻き込むために「守る会」となった。このことは、糸賀一雄氏の著書「この子らを世の光に」のタイトルにあるように、恩恵的に光を当ててやるという意味の「この子らに

世の光を」ではなく、自ら光り輝く存在であり、その存在を社会へ広げより良い環境をつくるという想いと同じであると感じました。

また、古川氏は講演の中で「打てば響く、打たないと響かない。それが運動」という言葉を残しました。幼少期から障害児者と接し理解を広めれば大人になった時、障害

関東・甲信越ブロック大会に参加して

日立市障害者共同援助施設

サービス管理責任者

井下 敦夫

11月16、17日に新潟県で行われた関東・甲信越ブロック大会に参加させて頂き、とても有意義で貴重な機会を有難うございました。

実際に長年辛い大変な想い、ご苦労をされてきたご家族の声を聴き今に至るまでの長き道のりを感じました。

改めて私たちが出来る事は、どんな事だろうと考える貴重な時間になりました。将来親亡き後に残される利用者様の事 5年・10年後を見据

に対する理解が今の大人たちよりもある。それがさらに広がっていけば……きつと今よりも住みやすい社会になっていると思えました。

これまで守る会が行ってきた歴史を知ること、守る会の存在意義がどれほど大きいものなのだと痛感させられました。

この貴重な経験をさせていだいた茨城県守る会藤枝会長はじめ、会員の皆様に御礼申し上げます。この経験を胸に今後の支援に励みたいと思います。

えての選択、地域の中で共に生きる「共生」とは等……家庭環境や本人の状況、様々な場面の中で「自分らしく」どう過ごしていくかとても大きな課題であり、支援者の一人として重すぎて答えが見つかりませんでした。自己選択・意思決定、今の支援の中で大切な部分ですが、本人の思いと家族の思いが必ずしも一緒ではないギャップ、重い障害ゆえ、支援も多く必要になるが医療的ケア・支える福祉施設、支援者(職員)等、受入れる側も不足が生じているのが現状です。追い打ちをかけての「老障問題」があります。解決していかねければい

交流することの大切さ

日立市ひまわり学園 支援員

三塚 栄里子

けない問題が山積みですが、しっかりと先を見据えて出来ることを一つずつ行い、一人でも多く障害を持つている方が住みやすい環境になるように声を上げていきたいと思えます。

研修最終日に視察でお伺いした長岡療護園の利用者様の笑顔がとても素敵で印象的でした。あのような笑顔を多く引出せる支援者として自分もそうありたいと思います。

11月中旬に開催された全国重症心身障害児者を守る会、関東甲信越ブロック会議に参加させて頂きました。2日間の時間の中で得られた事は数多くありましたが、中でも心に残るのは、やはり現場の人の声でした。会話の中で他団体の方々の親としての想いや苦悩を垣間見る度に、日々の支援の中で自分はそれらに対してどこまで寄り添うことが出来ているのかと考えさせられます。何かに向き合う時、これで良いのかと思案に暮れる問題に向き合いがちな私は、ある程度の型に出来るまでとも時間がかかります。今の関わり方が正解かどうかは、

相手の受け取り方により変わります。時と共に相手を取り巻く状況は、緩やかにですが確実に変化していきます。それに即時対応できるだけの知識や経験が私には乏しいと感じる事が増えてきた所に、今回の2日間が丁度重なり、視点を切り替える機会に恵まれました。見聞きをする事全てに共感し、目の前の光景を素直に受け入れる事で、凝り固まった自分の思考を上手くリセット出来た、とても申しましようか。今まで自分が大切にしてきた事も再確認出来ました。

2日目の午後からは、長岡市にある長岡療護園を見学させて頂く機会もありました。ここでの短い時間の中でも、驚きや心温まるシーン満載でした。好奇心旺盛な眼差しで私達の後を追ってくる方、抑えきれないくらい喜びの笑顔を見せてくれる利用者さん。どちらも最高にキラキラな眼差し。日々の生活が満たされていなければ、あの雰囲気は出せないです。我が法人も、そこに關しては負けていませんが、素直に素敵だなと感じた部分は良い目標にもなります。このような有意義な時間を過ごせた事と、関わってくださった皆様には、ただただ感謝です。有難うございました。

笑顔と感謝

ひとり暮らしを

始めた……

與澤 幸夫

私は、日立市太陽の家、元つき・にし組の利用者です。十数年以上前にその組を解散し、その後グルーブホーム風の家に月1、2回程度泊まらせていただきました。

私は約十年前の春から体調を崩し、尿などの病気のため、いくつかの病院にかかり、2回入院した。その後しばらくして腹の調子がまた悪くなり、3回目は長い入院になってしまった。24時間つらい点滴を打ち、鼻に管（チューブ）を入れ、ご飯も食べる事が出来ず、苦しい経験を3カ月、味わってきたと思う。そしてようやく退院し、しばらくしてから、水戸市赤塚にあるCIL（自立生活センター）いろはに入会する事となった。クローバー事業所のヘルパーさんに関わってもらい、様々な介助方法（食事、入浴、トイレなど）を覚えてもらった。将棋大会やバーベキュー、

忘年会、クリスマス会など、特には個人的には、東京へ朝早くから電車で大きな将棋大会（全国障害者）に行ったり、埼玉にある鉄道博物館へ行き、とても楽しい思い出になったと私は思う。

私の母親は現在、元気でいるが、高齢もあり、負担をかけたままに思いつつ、少しは楽になつてくれているかなとは思った。それで私は、ひとり暮らしがしたいなと思いはじめた。ここ十年の間、CILいろはのメンバーがひとり暮らしをしている姿を見てきたからだと思う。しかし、現実には厳しい状況だった。自立生活をする為には、ヘルパーさんと一緒に全て自分で考え、色々な準備をしなければ実現できない事を教わり、学んできたと思う。

そして私は、いろはの代表者さんに「オレ、ひとり暮らしがしたい！」と、4年ほど前に自らの言葉で伝える事ができたと思う。黙っていても手伝わってもらえないからだと思う。不安もあるけど、母親に報告する事にした。その

間、代表者や当事者が私のために、半年以上前から数回にわたり、自立生活に向けての会議を開いていただいた。クローバーのコーディネーター2人、チーフヘルパー1人、日立太陽の家の相談員さん1人、私の母親、ヘルパーさん3人で厳しい話し合いが行われた。いろは事業所には少し離れた所に体験室というアパートがあり、その一室で3日間ずつ泊まりながら、スマホでネットなどを使い、物件情報を見て、間取りなども知り、少し安い家賃を見つけたら、天気の良い日に自らの足代わりの車イスで、那珂市内にある不動産会社へ行き、担当者から物件情報を調べてもらい、あれやこれやとくり返し話し合った。那珂市菅谷周辺に良い部屋を探し、中身を自分の目で確かめながら歩き回ってきた。約半年位かかるとなると思う。ちなみに体験室というのはいわば、自立生活をするための勉強だと思つた。そして令和6年4月に、私とウチの母親、ヘルパーさんと共に契約証（2年分）の手続きを済ませ、さらに相談員さんも加わり、那珂市役所へ住民票などの手続きも済ませてきた。

6月いっぱい19年間、お世話になった常陸大宮にあるデイサービスを辞めた。24時間体制のヘルパー確保を決定させるためであった。そして、引っ越しをする準備が進み、7月17日より新たなスタートを切ることとなった。引っ越し当日、いろはのメンバー2人と、クローバー（ヘルパーさん）10人に手伝いに来てもらい、パソコンとか、小さなテーブル、寝具、洋服タンク、本棚、食器棚、その他の荷物などをリフト車2台、ヘルパーさんの家用車5台以上についで運んでいただいた。実家を出る前に実家をバックに、みんなで記念写真まで撮ってもらった。暑い最中だったが、私は凄く嬉しかった。貰い物もありがたく頂戴した。洗濯機などなど。あと一緒に中古店で買いに行った。苦労も不安もまだまだあるが、何事もなく約4カ月が過ぎていった、ひとり暮らしに慣れた、年齢も忘れ、自由で自分のしたい事をすれば、メチャクチャに面白く、実家とは全く違う生活を送っていき、楽しくてたまらないと思つた。また、金銭管理や銀行口座なども全て自分でやら

なければならぬ。家賃代や電気、ガス、水道、食料、スマホ、交通費（電車）、灯油車のガソリン、娯楽（将棋など）、必要品なども全部、自分でやるようにしているのだ。寂しさもあるが、母親にもけつこう苦労させたなと思われたかなと思う。もちろん、これからは無理をせず、長生きしてほしいと私は思います。私も現在58歳で、あと少しで還暦になります。

最後に、気が向いたら、いつでも私のアパートへ遊びに来てくださればなと思ひます。

娘と共に

日立太陽の家 居宅介護事業所利用

保護者 葛西 栄子

娘、紀子も十月六日に五十六才になりました。二十才まで生きていられたが……と医師に言われましたが、よくぞここまでと感無量です。

生後五カ月で予防注射を受け、障害が残ってしまったとわかった時のショックは今でも忘れる事が出来ません。

今まで本当に沢山の方々

(次頁へ)



あったかい須田帆布さん family との出会いに感謝し、素敵な製品作りに励んでいきたいです。(しいの木学園)



テーブルを使うことで、手で体重をささえつつ、その上に好きな物をおくことができるので楽しく立位の保持訓練が行えます。(母子療育ホーム)



今年も人形劇かくれんぼさんが来園。ハンドベルに絵本の朗読、人形劇、楽しい時間をありがとうございました。(太陽の家)



グループ活動第3班で電車の旅をしてきました。ランチにお買い物、充実した時間を過ごしました。(ひまわり学園)

※写真撮影のためマスクをはずしています

(前頁より)
にお世話になり今があると
思うと感謝の気持ちでいっぱい
です。

私の親・兄弟はもちろん、
紀子の弟妹達にも口では表わ
す事のできない位苦労、迷惑
をかけ、病院関係、施設関係、
私の友人達……、その他沢山
の方々に世話になり、今が
あるといつも感謝をしていま
す。

今はみなみひまわり学園に
通園、G Hみなみの杜、日立
太陽の家居宅介護事業所の皆
さんにお世話になっておりま
す。いばらき診療所の先生方
にも月二回の往診、毎週月曜
日は看護師さんが来て体調に
気を配ってくれています。

本人も年令と共に出来る事
が少なくなり私達も昨日やっ
てあげられた事が今日は難し
くなってきたりと、将来に不
安を感じる様になってしまし
た。親の元気なうちに紀子の
将来をキチンと考えてあげ
なければと思いつながら、いろ
いろ考えてしまうと踏ん切り
がつかないのが現状です。で
も皆さんのご意見を伺いな
がら考えていこうと思ってい
ます。

紀子の笑顔がいつまでも見
られる様に……。

お知らせ

◎二〇二四年度
NPO法人日立太陽の家
利用者総数 三百八十三名
男性 二百二十名
女性 百六十三名

ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました(敬称略) 九月〜十一月
黒澤弘明 榎田孝行
とく名 木村順子
人形劇かくれんぼ

○次の方から物品の寄贈がありました(敬称略) 九月〜十一月
椎名将光 篠原小百合
日立守る会 黒澤和子

編集後記

笑顔あふれる穏やかな一年
になりますように。(K記)

